

5月22日 (日)  Ⅱ テモテ 1章	「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです」(7節)。テモテはパウロの一番弟子として諸教会に派遣されたが、温厚で内気なところがあった。パウロは私たち一人ひとりの個性をよく知ったうえで「福音の器」として用いられる神の力、神の賜物に信頼して立つように勧める。その神に、力と愛と思慮分別を求めている。
23日 (月)  Ⅱ テモテ 2章	「そこで、わたしの子よ、あなたはキリスト・イエスにおける恵みによって強くなりなさい」(1節)、「イエス・キリストのことを思い起こしなさい(口語訳:いつも思っている)」(8節)。一日の始まりに主イエスを思いたい。主イエスの祈り、まなごしを思い起こしたい。自分の力と知恵ではなく、この方から与えられる恵みによって強められ、歩む一日となるように。
24日 (火)  Ⅱ テモテ 3章	「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」(16節)。普段「自分の言動をきちんと見た上で戒めを与え、誤りを正してもらえる機会」というものは、そうそうあるものではない。聖書は、私たちが神の霊の導きを求めて読むならば、正しく戒め、誤りを正し、義に導いてくれる大切な神の御言葉。
25日 (水)  Ⅱ テモテ 4章	「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても、悪くても励みなさい」(2節)。今日、わたしがクリスチャンであること、聖書の神を信じていること、イエス・キリストがあらわされた真実の愛と復活の希望こそが、私たちを救い、私たちを正し、平安に導いてくれることを証しすることができますように。たとえ反対にあったとしても、神の導きを信じて立つことができますように。

<p>26日 (木)</p> <p>テトス 1章</p>	<p>「清い人には、すべてが清いのです」(15節)。主イエスも「ケガれた食べ物などない。むしろ人が心の中で思い、その口から出てくる悪こそ、人をケガすのだ」と語られたし(マルコ 7:14以下)、「ケガれた人など存在しないこと」をご自身の行動を通して示し、「悪霊にとりつかれた病の人」にも触れていかれた。今日、すべてに注がれている神の恵みを見つめていこう。</p>
<p>27日 (金)</p> <p>テトス 2章</p>	<p>「実にすべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました」(11節)。私たちが心に思い描く以上に、はるかに「広く、長く、高く、深いキリストの愛」(エフェソ 3:18)を覚えたい。十字架の縦の線は、わたしの心の一番深いところにまで届き、天の恵みにつなげてくれている。そして十字架の横の線は、世界中のあらゆる人々を包むほどに長く、広い。</p>
<p>28日 (土)</p> <p>テトス 3章</p>	<p>「わたしたちの救い主である神の慈しみと、人間に対する愛とが現れたときに、神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました」(4-5節)。私たちが日々、心の中に生まれる怒り、ねたみ、悪意、恐れや不安に沈んで溺れてしまわないようにと、神はその慈しみと愛をあらわしてくださった。ハレルヤ。</p>
<p>29日 (日)</p> <p>フィレモン</p>	<p>「わたしたちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈っています」(6節)。証を分かち合うことは、一人では感じるができない神の業の広がりを知るために大切なことなのだろう。協力伝道の輪も、一つの教会では出会えない神の恵みを多くの人と共に分かち合うことなのだろう。</p>